

大会企画 | 2022年11月19日

📅 2022年11月19日(土) 17:40～19:10 📍 B会場 (大ホールC)

大会企画5

医療情報技師育成事業20周年記念ワークショップ2「医療情報技師会のあり方を考える」 - これまでの10年を振り返ってこれからの10年を展望する -

オーガナイザー：下川 忠弘（全国医療情報技師会連絡協議）

座長：下川 忠弘（全国医療情報技師会連絡協議）、相坂 琢磨（東京医科大学）

[3-B-4] 「医療情報技師会のあり方を考える」

- これまでの10年を振り返ってこれからの10年を展望する -

*下川 忠弘¹ (1. 全国医療情報技師会連絡協議会)

キーワード：Healthcare Information Technologist、Japan Association of Healthcare Information Technologist、Healthcare Information Technologist Committee

2003年に最初の医療情報技師が認定されて以降、2009年に最初の技師会として関西医療情報技師会が発足し、2022年現在では北は北海道から南は九州沖縄まで、各地域に職能団体が設立され、薬剤師など職域ごとの職能団体も設立された。職能団体というコミュニティがあることで、上級を含めた医療情報技師は自己研鑽や情報交換など、その能力を十二分に発揮できるようになっている。一方、医療情報技師の価値を理解してもらえず、その能力が適正に評価されていないという話もあり、こうした課題に技師会が寄与できる可能性がある。そこで、これまでの10年間の活動を、各地域技師会の視点で総括を行うと共に、本年立ち上げた全国医療情報技師会連絡協議会の目的を参加者と共有し、意見交換をすることで、これからの10年を展望する。

医療情報技師育成事業 20 周年記念ワークショップ 2 「医療情報技師会のあり方を考える」

－ これまでの 10 年を振り返ってこれからの 10 年を展望する －

下川忠弘^{*1}、大沼洋則^{*2}、岡田謙二郎^{*3}、原瀬正敏^{*4}、高井康平^{*5}、中田悠太^{*6}、渡邊春美^{*7}、吉田誠治^{*8}、
川田康友^{*9}、山澤順一^{*9}

*1 全国医療情報技師会連絡協議会、*2 北海道医療情報技師会、*3 関東医療情報技師会、
*4 中部医療情報技師会、*5 関西医療情報技師会、*6 岡山県医療情報技師会、*7 広島県医療情報技師会、
*8 四国医療情報技師会、*9 九州沖縄医療情報技師会

Workshop 2 for the 20th. Anniversary of Healthcare Information Technologist Committee

“Considering the ideal of the Association of Healthcare Information Technologists”

- Looking back over the past 10 years and looking ahead to the next 10 years -

Tadahiro Shimogawa^{*1}, Hironori Onuma^{*2}, Kenjiro Okada^{*3}, Masatoshi Harase^{*4}, Kohei Takai^{*5}, Yuta Nakata^{*6},
Harumi Watanabe^{*7}, Seiji Yoshida^{*8}, Yasutomo Kawata^{*9}, Jyunichi Yamazawa^{*9}

*1 Liaison Council for Japan Association of Healthcare Information Technologists (HCIT),
*2 Hokkaido Association of HCIT, *3 Kanto Association of HCIT, *4 Chubu Association of HCIT,
*5 Kansai Association of HCIT, *6 Okayama Association of HCIT, *7 Hiroshima Association of HCIT,
*8 Shikoku Association of HCIT, *9 Kyushu and Okinawa Association of HCIT

Since the first Healthcare Information Technologists were certified in 2003, the Kansai Association of Healthcare Information Technologists was established in 2009 as the first association. As of 2022, associations have been established in each region, from Hokkaido in the north to Kyushu and Okinawa in the south, and professional associations have also been established for each professional area, including pharmacists. The existence of communities has enabled Healthcare Information Technologists to fully demonstrate their abilities for self-improvement and information exchange. On the other hand, the value of Healthcare Information Technologist is not well understood, and their abilities are not properly evaluated, and the association may be able to contribute to these issues. We would like to summarize the past 10 years of activities from the perspective of each regional association of Healthcare Information Technologists and look ahead to the next 10 years.

Keywords: Healthcare Information Technologist, Japan Association of Healthcare Information Technologist, Healthcare Information Technologist Committee

1. はじめに

2003 年に最初の医療情報技師が認定されて以降、2009 年に最初の技師会として関西医療情報技師会が発足し、2022 年現在では北は北海道から南は九州沖縄まで、各地域に職能団体が設立され、薬剤師など職域ごとの職能団体も設立された。職能団体というコミュニティがあることで、上級を含めた医療情報技師は自己研鑽や情報交換など、その能力を十二分に発揮できるようになっている。一方、医療情報技師の価値を理解してもらえず、その能力が適正に評価されていないという話もあり、こうした課題に技師会が寄与できる可能性がある。そこで、これまでの 10 年間の活動を、各地域技師会の視点で総括を行うと共に、本年立ち上げた全国医療情報技師会連絡協議会の目的参加者と共有し、意見交換をすることで、これからの 10 年を展望したい。

2. 各地区医療情報技師会のこれまでの 10 年を 振り返ってこれからの 10 年を展望する

以降、各地区の医療情報技師会のこれまでの 10 年を振り返り、そしてこれからの 10 年を展望する。

2.1 北海道医療情報技師会

北海道医療情報技師会は 2012 年に、関東医療情報技師

会の力添えのもと、北海道においても情報交流と医療情報技師としてのスキルアップを図るための集まりとして設立された。「北海道医療情報技師会、共に考え、共に学ぼう」というスローガンのもと、コロナ禍前の 2019 年までは、年 2 回の勉強会を基本に、医療情報領域の最新トピックに関する講演、北海道内の医療機関や企業における事例紹介、医療情報技師の活躍の紹介などを主なトピックとして 15 回の勉強会を実施してきた。北海道という広大な地理的特性から出席者の移動の負担を考慮して、北海道医療情報技師会の勉強会と日本医療情報学会北海道支部会の学術講演会を同日の午前と午後に分けて開催して、多くの勉強会で 150 名を超える参加があった。しかし、2020 年からはコロナ禍の影響により、集合型での開催が困難となり、長時間の Web セミナーは視聴者の負担になることから勉強会は休止している。

昨今、医療情報技師の認定資格については医療情報システムベンダー業界や社内での認知度は高いと思われるが、未だ医療福祉機関の中では知られている認定資格であるとは言い難い状況となっている。もっと医療情報技師というポジションを多くの医療福祉機関に理解される様、今後 10 年の目標として、技師会によるこれまでの勉強会や学術講演会の開催だけにこだわらず、実際の医療現場を理解し、医療者と円滑なコミュニケーションを行い、共に医療現場を最適化でき

る人材になっていく為の情報交換やリアルな現場の状況を共有できる機会を設け、標準的なシステムとは何か、医療 DX にまつわる様々な課題とは何かを理解・解決していける集まりとしても認知される様な取り組みを進めていく必要があると考えている。広い北海道でもオンライン環境を利用しながら、無理なく集まり情報交換するスタイルは今後も継続していくであろう。

2.2 関東医療情報技師会

関東医療情報技師会は 2010 年 12 月、すでに活動を開始していた関西医療情報技師会を追いかける形で発足した。会の運営においては、会長や副会長といった役員を置かず、勉強会を主催する当番世話人をその都度決め、当番世話人が関東医療情報技師会の代表という形をとっている。現在は世話人 23 名、事務局 5 名、会員数は 763 名である。

関東の医療情報技師が自発的に集い、医療情報技師が今後の医療情報に貢献していくことを目指し、事例等の情報交換を行いノウハウの共有を図る。また、特定のテーマを決めて議論を行い、継続的に医療情報技師としてのスキル向上を図るとともに、医療情報技師の認知度を高めるための活動を行っている。

発足後、12 年間で計 31 回の勉強会を開催した。それ以外にも、数回のシリーズに分けて行う「ミニ勉強会」として、統計基礎勉強会(計 5 回)、ネットワーク基礎(計 3 回)、上級医療情報技師試験受験予定者向けの「上級医療情報技師試験寺子屋」(計 10 回)を開催した。また、埼玉・茨城・群馬といった東京以外で開催するミニ勉強会(計 5 回)、北海道医療情報技師会設立準備会への講師派遣などの活動も行った。

当初 11 名の世話人から始まった当技師会だが、現在の世話人の人数は 23 名となった。若い世代もメンバーに加わり、しっかりと新陳代謝も進んでいる。勉強会に求められるテーマもこの 10 数年で変化していく中で、今後も医療情報技師に必要とされる技師会を目指し、医療情報技師に必要な知識の共有とコミュニティを形成すべく、会員のみならずとも歩んでいきたい。

2.3 中部医療情報技師会

福井・石川・富山の北陸 3 県、愛知・岐阜・三重・静岡の東海 4 県の中部地区における医療情報技師の勉強の場を目的に、2013 年 7 月に設立準備会を設置し、第 1 回の勉強会を開催した。参加者の多くの方から、勉強会継続の支持をいただき、同年 11 月に中部医療情報技師会が設立された。

2015 年には「静岡医療情報技師会」が設立されたことをきっかけに、先に北陸地区で設立されている「北陸医療情報技師懇談会」と 3 者間の調整を図り、研究会内容やトピックスなどを共有し、中部地区の医療情報技師がよりよい勉強の場が提供できるよう協調する運営を開始した。

一方、技師会の運営は、設立当初、発起人 8 人による世話人会を立ち上げてきたが、研究会開催や会計・事務処理などの負担も多いことから、機動的な会運営が行えるよう中部地区の有志を募って増員を図り、現在、17 名の世話人で活動を行っている。また、2015 年より会長、副会長、各種担当を設置し、世話人の業務内容を明確化することにより、責任を持って会運営に当たるよう体制整備を行った。

設立当初の勉強会のテーマは、医療機関における医療情報技師のあるべき姿像の考察や会員相互の親睦を図るためのテーマなどを行ってきた。2014 年に育成部会が作成・公表された「病院情報システムの利用者心得」を基に、HI-UP 勉強会を実施し、グループで行う実践型の勉強会も開催してき

た。近年では、医療安全、地域連携、BCP、経営企画など、医療情報技師に必要と思われる情報を発信している。設立から 17 回の勉強会を開催し、延べ 1,000 名以上の方に参加いただいており、引き続き、医療情報技師の勉強の場として提供を続けていきたいと考えている。

2.4 関西医療情報技師会

関西医療情報技師会は、主として関西を基盤に活動する医療情報技師が自発的に集い、医療情報技師が今後の医療情報に貢献していくことを目指している。登録会員数は現在約 700 名で、その 8 割が関西圏の在勤者である。運営は 27 名の世話人で遂行されている。

当会では勉強会の開催をメインの活動と位置付け、年に 3 回程度開いている。加えて独自の取り組みとして、HIMBOK(Healthcare Information Management Body of Knowledge)がある。医療情報学分野に関連する国際標準の知識体系や標準的フレームワークについて、当会世話人が中心となってまとめたものである。これらの知識、フレームワークを学習することで、高度化する医療情報に対するマネジメント能力を開発して実践することが可能になると考え、講習会を開催してきた。現在第 4 回(HIMBOK4)の開催を企画中である。

さてこれからの 10 年に向けて、折しもコロナ禍の影響もあり、まさに変化の時を迎えている。まず組織の持続的な発展のために、世話人に新たな若手を招き入れ、次の世代につないでいきたい。後進を育成するとともに、新しい知見と発想を積極的に取り入れた運営を目指す。勉強会はオンラインで手軽にできるようになり、受講者も登壇者も広く全国から参加できるようになった。「関西」にこだわる意味は薄れ、全国向けを意識した開催も模索していく。いままでは集合研修として開催していた HIMBOK も、WEB 会議のブレイクアウトルームの活用などによって全国横断的なディスカッションなどが可能となる。医療情報技師同士のネットワーキングの広がりにも寄与できるだろう。

このように医療情報技師が新たなコミュニティでスキルをあげ、所属組織への貢献を積み重ねることで、自ずと医療情報技師の認知度や信頼度は高まるであろう。そうなるように活動していきたい。

2.5 岡山県医療情報技師会

医療情報に携わる同志たちが全国で活躍する中、岡山県内においては医療情報や診療情報管理に関わる実務者たちが定期的に集う研鑽の場がなく、学びを求めて近県各地を飛び回っていた。平成 25 年に地域密着型でボトムアップを図るための研鑽の場として「瀬戸内医療情報ネットワーク(せとねっと)」が発足した。2 年後の平成 27 年 5 月に開催された第 10 回勉強会では関西、広島の技師会など多くの団体協力を経て会場開催ながら 200 名規模の開催となった。

せとねっとは当初より学習への足掛かり的存在であり若手を対象としていたため、より高度なレベルを求める声が上がった。若手職員のための会と、専門性を求める会はそれぞれ必要であると考え、より専門的な知識を地域で学ぶ環境を構築するため平成 29 年にせとねっとと協働し「岡山県医療情報技術研究会」を設立した。この団体は医療情報技術の研鑽に特化し、医療情報技師やそれを目指す者のための団体として活動を開始した。設立にはせとねっとに参加経験のあった医療情報技師、岡山県在住の上級医療情報技師の全員に個別連絡を取り、設立と運営の協力を得て行なった。また、中国医療情報技師会を運営する団体の岡山県団体とし

て中国5県との連携も強固になっていった。

令和2年になり、コロナの影響で各地の研鑽の場は形態の変更を余儀なくされた。オンラインでの研修会を行うにつれて、全国の医療情報技師が地域の垣根を越えて容易に参加することができるようになった。この頃から当団体の意義を今一度検討し、参加者へ明確に伝わるよう令和3年4月より「岡山県医療情報技師会」へと名称変更した。

設立の契機もその後の対応も、全ては地域の実務者が中心にある。オンライン化が進む中でも我々は地域(岡山圏域)の実務者を第一に考え、地域密着という初心を忘れず研鑽を続けていきたいと考える。

2.6 広島県医療情報技師会

広島県医療情報技師会は、3つの活動目標「医療情報技師の自己研鑽」、「医療情報利活用のスキルを持った新たな人材の育成」、「医療情報に携わる者同士の連携」を掲げ、会員参画型の会を目指し2013年4月に設立した。

現在(2022年4月)の会員672名の方々のご協力により、広島圏域の医療情報技師と医療情報技師を目指す方々との相互連携、および現状と将来における医療情報利活用に関する諸問題に対して気軽に活発な情報交換ができる体制を構築している。

当会の特色は、様々な職種からなる世話人21名、実行委員23名の各々が専門部会を組織し、研修やセミナーを企画・立案している点である。具体的には、薬剤部会、看護部会、画像部会、臨床検査部会、臨床工学部会、診療情報管理部会などの各専門職種の部会、および医療情報マネジメント部会、広報部会、そして医療情報技師育成支援部会である。最後の部会は医療情報技師の資格認定を目指す人の支援(人材育成)を目的としたものであり、医療職が苦手とする「情報処理技術」の試験対策セミナーを試験直前に全4回開催し、認定取得者が講師となり次の認定者を育成し仲間を増やす活動を担っている。今年度は12名の方が受講して頂いた。

当会の主軸は年3回の定期研修会開催である。研修会の基本構成は、各専門部会企画のセッション、医療情報領域の情報提供、教育講演、基調講演であるが、年1回は医療情報技師の自己研鑽を目的として会員から演題を募集し、発表する機会を設けている。さらに2016年から中国地方5県が共同で年1回開催する中国医療情報技師会研修会を通じて近隣県との連携を計っている。

当会は本年で10年目の節目を迎えた。これまでの活動を振り返り、上記3つの目標を変わず掲げつつ、より多くの会員の方々が参画頂けるよう、これからの10年を見据えて活動内容の再検討を行なおうとしているところである。

2.7 四国医療情報技師会

コロナ禍以前、四国の医療情報技術者は地理的な問題により自己研鑽、交流の機会を得るための経済的・時間的コストにおいて、都市部との格差が生じていた。また、医療情報技師資格取得後の維持が困難である事実も、受験や資格更新のモチベーションに影響を与えるものと考えられていた。

2017年頃より四国各県の医療情報技術者有志により、四国の医療情報技術者が地理的なハンディキャップによらず、医療情報業務に携わる者として医療の特質をふまえ、最適な情報処理技術にもとづき、医療情報を安全かつ有効に活用・提供することができる知識、技術および資質の向上を図る。また、会員間の交流を高め、互助の関係性を図ることを目的に設立を検討されたのが本会である。第1回設立総会は2018

年2月に高知県で開催した。以降、各県の世話人による持ち回りで年2回、勉強会ならびに情報交換会を運営している。

四国は中央に山岳地帯があるため各県の時間的距離は大きく、集合形式のみだと参加障壁は四国内開催においても残課題であった。このため、本会では将来的にサテライト会場をつなぐオンライン開催を目標としていた。オンラインでの開催は図らずもコロナ禍の中、設立2年半後の2020年10月の勉強会で実現することになった。全国的にもオンライン勉強会が普及したため、地理上の格差の問題は解消されたとと言える。一方、顔の見える会員の関係性は、オンライン勉強会の普及とともに希薄になった。

全国に先駆け、少子高齢化や人口減少の波が押し寄せている四国において、医療情報技術者の交流低下は、後進の育成や世代交代の課題のみならず、医療デジタル社会の地域格差を生む課題にもつながる。これら課題解決のために、デジタルネイティブ世代を巻き込んだ運営の在り方や、交流方法そのものを見直す機会にきているのではないかと考えられる。

2.8 九州沖縄医療情報技師会

医療情報技師資格が始まってからの20年の間に、情報通信やデバイスの面で世の中は大きく変化した。情報サービスも多様化し、これまでテレビや新聞などの既存メディアから一方的に情報を受け取ることの多かった時代から配信の時代へ、サービスの利用も買い切りからサブスクリプションへ、労働形態もプロパーの正規雇用・内製から委託・委任へと変化する中、業務の目的・目標は変化しないのにその手段や環境は目まぐるしく変革・進化し、法制度や各種ガイドライン・倫理指針も時代に合わせて内容が厳密化されてきた。ところが、2019年末から2020年初頭にかけて発生したCOVID-19の世界的パンデミックは、あらゆる国の政治・経済やビジネス・生活のスタイルをそれまでから考えると10年ばかりかかってきた変化をたった1年で急激に一変させた。このドラスチックな世界の変化は、皮肉にもそれ以前の2018年から経済産業省が再定義として提唱するも遅々として進んでいなかったDXを否応なく強制的に推し進める結果となったことは記憶に新しい。しかし、そのDXの中心となるICT技術はパンデミック後になって急に進化したものではなく、DX導入の鍵となる業務運用の見直し・最適化の必然性も以前から言われてきていたものである。同時に、我々医療情報技師・上級医療情報技師の医療情報におけるミッション・ビジョン・バリュー、それを実現するための一般目標及び行動目標群(GIO・SBOs)も本質的にはパンデミック前とは何ら変化していない。では、それでは我々の活動はこれまで何を前提の上で何を目的とし何をなしてきたのか(AsIs)、また今後どうあるべきであるのか(ToBe)、ということについて、ガイドラインの変遷と九州沖縄医療情報技師会における活動報告を織り交ぜながら、これらの疑問に対するアプローチの一つとなるべく、当技師会より提言を行う。

3. 全国医療情報技師会連絡協議会の設立とその目的

医療情報技師・上級医療情報技師(以下「医療情報技師等」)は、認定試験に合格した後もその知識や技術、資質を保持し向上を図ることを目的として、資格の有効期間内に所定の資格更新ポイントを取得し、その資格を更新する必要がある。かつて資格制度が創設された2000年代は、それらの更新ポイントを取得するための機会が少なかった時期であり、資

格を更新・維持することは決して容易ではなかった。また、医療情報技師等の資格を取得したものの、周囲に有資格者が少なかったため、医療情報技師等の間で医療情報の事例等の情報交換を行ったり、ノウハウの共有を図ったりすることが困難であった。

しかし、2000年代後半に上級医療情報技師メーリングリストが開設されたことや医療情報学連合大会での医療情報技師を対象としたイベントなどを契機に、各地域で医療情報技師等が自主的に講習会や勉強会等の開催などの活動を行う機運が高まった。そして、冒頭に述べた通り、2009年2月の関西医療情報技師会の設立を皮切りに各地域で医療情報技師会が設立され、現在では全国をほぼ網羅する形で技師会が存在し、医療情報技師等の手によって主体的に勉強会が開催されている。最近では、学会支部との共催や後援を受けての勉強会や、Web会議システムを用いたオンラインでの勉強会など、開催形式も時代の要請に応じて多様化している。それらの活動を通じて、当初の課題であった医療情報技師等の資格更新・維持や有資格者同士の情報交換、ノウハウの共有などを図るといった目的は達成できていると考える。

一方で、多くの勉強会の開催等、技師会の組織運営は世話人である医療情報技師等によりボランティアに行われており、その負担は決して小さくない。また2016年以降、技師会同士の連携や勉強会コンテンツの共有などのニーズが顕在化している。さらに、医療機関に対するサイバー攻撃等への対応や医療IT化の更なる推進が国策として進められているなど、医療情報技師等のプレゼンスを高める機運が高まっている。医療情報技師育成部会としても、医療情報技師等の育成を支援する立場から、年2回の医療情報学連合大会等において医療情報技師をサポートするための催しを企画、開催している。開催にあたっては各地域の技師会へ協力が要請されるなど、育成部会と技師会とが連携・協働する機会も増えている。これらのことを背景として、育成部会と技師会との関係を整理することが求められている。

そこで、2022年に入り、全国医療情報技師会連絡協議会として各地域の医療情報技師会の関係者が集まり、前述の課題などについての協議を開始したところである。最終的な組織体制の在り方について結論が出るまでに一定の期間を有するものと考えているが、この協議会が職能団体として奮闘している医療情報技師等をサポートすることができるよう、そして育成部会との協調体制を構築する窓口として機能するよう、微力ながら尽力して参りたい。